ＩＳＳＮ 0285－4767

# 北海道考古学会だより

第　110　号
２０１４．11．７

目　次

**2014年度　遺跡見学会実施報告**……1
参加体験記：林トモ子さん「遺跡見学会に参加して」……1
**2014年度　遺跡調査報告会のお知らせ**……3
**2015年度　研究大会のお知らせ**……3
**月例研究会のお知らせ**……3
**会誌に関するアンケート結果を受けて**……4
**会員からの投稿：新刊紹介**　イーガリ・アナトーリヴィチ・サマーリン、オーリガ・アリェクシーヴナ・シュービナ『南千島地方の歴史及び文化記念物』　西脇対名夫……5
**事務連絡**……6
入退会者のお知らせ……6
会費納入のお願い……6
会誌編集委員会からのお知らせ……6

## 2014年度 遺跡見学会実施報告

今年度の遺跡見学会は､「恵庭市・千歳市の遺跡発掘調査現場と資料館・展示室を見る」をテーマとして、８月30日(土)に実施しました。今回は23名のご参加をいただき、恵庭市・千歳市で行われている発掘調査現場の見学と恵庭市郷土資料館、千歳市埋蔵文化財センター展示室、江別市北海道埋蔵文化財センターの見学を行いました。天候にも恵まれ、見学会日和の中で行うことができました。

見学したところでは、参加者の皆さんが担当者の方の解説を熱心に聞き、積極的に質問をする姿が多く見られました。今回の参加体験記を林トモ子さんにお願いしました。

見学コース
１．千歳市トプシナイ２遺跡（北海道埋蔵文化財センター）
２．千歳市根志越５遺跡（北海道埋蔵文化財センター）
３．千歳市埋蔵文化財センター
４．恵庭市郷土資料館（恵庭市教育委員会）
５．恵庭市島松Ｂチャシ跡（恵庭市教育委員会）
６．江別市北海道埋蔵文化財センター

ご多忙のなか対応してくださった各担当の方々にお礼申し上げます。

## 参加体験記：「遺跡見学会に参加して」

林　トモ子

８月30日(土)の朝９時、札幌駅北口バス乗り場から参加者を乗せたバスが出発しました。参加者は昨年と比べて少なく23名でした。天候は快晴で、見学会日和となりました。今年の見学会のテーマは、『恵庭市・千歳市の遺跡発掘調査現場と資料館・展示室を見る』でした。

バスは、添乗の方から見学会のしおりや資料の説明などを受けながら、道央自動車道を通って千歳市に向かいました。途中、高速道路から今回の見学コースに入っている恵庭市の島松Ｂチャシ跡が見えるとのことで車窓から見ると、崖の上に発掘現場があるのがわかりました。千歳市に入り、道東自動車道

の千歳東ＩＣ付近では、この下がキウス４遺跡でこの先にキウス５遺跡がありますという説明がありました。千歳東ＩＣを降りると、国指定史跡キウス周堤墓群を車窓に見ながら最初の見学地へ向かいました。周堤墓の大きさに驚きました。

最初の見学場所は、北海道埋蔵文化財センターが調査している千歳市の遺跡です。トプシナイ２遺跡では、担当の方が現場の中を案内してくださいました。遺跡の立地や土層、遺構のことなどの解説を受け、出土した遺物も見せていただきました。次に根志越５遺跡に向かいました。発掘している場所は地表から２ｍくらい下で、矢板で囲われていました。何もしないと水が湧いてくるそうで、常時ポンプで水を汲み出して発掘しているそうです。

次に向かったのは、千歳市埋蔵文化財センターです。担当の方の解説を受けながら、千歳市の文化財や出土遺物の展示を見学しました。国指定重要文化財の動物形土製品や近世の丸木舟の展示があり、また展示室の床には各時代の住居の形が描かれているなど、楽しく見学しました。

午後からは恵庭市に移動しました。恵庭市郷土資料館では館内での昼食後、添乗していた恵庭市の鈴木さんの解説を受けながら展示を見学しました。特にカリンバ遺跡のお墓の模型のところでは、参加者の方から多くの質問があり、熱心に聞き入りました。

島松Ｂチャシ跡に移動して、引き続き鈴木さんの解説で見学をしました。朝に高速道路から見えたところです。アイヌ文化期のチャシ跡だということで調査をしたが、実際は縄文時代の環濠だったということでした。発掘現場は傾斜が急なところで、調査は大変だろうなと思いました。

最後に江別市の北海道埋蔵文化財センターを、添乗していた酒井さんの案内で見学をしました。普段見られないところをということで、遺物を保管している収蔵庫や写真撮影をする写場、整理作業を行っている整理作業室などを見学した後に、展示室の見学をしました。膨大な数の遺物に驚き、作業をする皆さんのご苦労は大変なことと思いました。ここの見学は、時間が少なくなってしまい、駆け足になってしまったのが残念でした。

最後になりますが、今回の見学会の関係者、案内や解説をしてくださった皆様方に深く感謝いたします。次回の見学会も楽しみにしております。ありがとうございました。

千歳市根志越５遺跡

千歳市埋蔵文化財センター

恵庭市郷土資料館

恵庭市島松Ｂチャシ跡

## 2014年度 遺跡調査報告会のお知らせ

今年度行われました北海道内の遺跡調査についての報告会を以下の通り開催いたします。
開催にあたり、例年通り発表遺跡の資料と地域ごとの発掘調査の概況を掲載した資料集を刊行します。また、報告会終了後には懇親会を用意しておりますので、こちらもぜひご参加下さい。

○日　時：2014年12月13日（土）　10：00～17：00　（開場９：30）
○場　所：北海道大学文系共同講義棟１階６番教室（北10条西７丁目）
　　＊総合博物館向かい
　　＊公共の交通機関をご利用下さい。
○参加費：無料（資料集は1,000円で頒布予定です。）
○報告遺跡（予定）　　【　】内は主な時代・時期
　恵庭市　　島松Ｂチャシ跡　【縄文時代中期】
　伊達市　　若生貝塚遺跡　【縄文時代前期】
　木古内町　札苅７遺跡　【縄文時代後期】
　厚真町　　ショロマ２遺跡、ショロマ４遺跡、上幌内１遺跡、上幌内２遺跡、上幌内３遺跡
　　【縄文時代～アイヌ文化期】
　倶知安町　峠下遺跡　【旧石器時代】
　中川町　　オフイチャシ跡、安部志内川右岸遺跡　【アイヌ文化期】
　むかわ町　ニサナイチャシ跡、ノットカチャシ跡　【アイヌ文化期】
　別海町　　床丹１チャシ跡　【アイヌ文化期】
　　＊報告遺跡および順序は変更になる可能性があります。
○懇親会：17：30～（会場・会費は当日ご案内します。）
○その他：当日書籍等の販売・チラシ等の配布を希望する方は事務局まで御一報下さい。

※本報告会は、道民カレッジ連携事業です。

## 2015年度 研究大会のお知らせ

次の要領で開催予定です。ふるってご参加ください。

日　時：2015年５月９日（土）　10：00～17：00
場　所：北海道大学文系共同講義棟１階６番教室（北10条西７丁目）
テーマ：「サハリン・千島ルート」再考

※終了後、18：00からニコラスハウス（北大内）で懇親会も予定しております。

## 月例研究会のお知らせ

北海道考古学会では、以下の予定で月例研究会を行います。予定の変更については随時学会ホームページ（http://www.h7.dion.ne.jp/~hokkouko/）でお知らせいたします。

**第５回研究会**
○日　時：2014年11月15日（土）　15：00～
○会　場：北海道大学大学院文学研究科（文学部）１階100室（考古学実習室）
○発表者：内田和典氏（北海道教育委員会）
○テーマ：極東地域の前期新石器時代の土器研究－アムール流域・沿海地域・サハリンを中心に－
**第６回研究会**
○日　時：2015年１月24日（土）　15：00～
○会　場：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟（Ｗ棟）５階Ｗ517教室

○発表者：高瀬克範氏（北海道大学）
○テーマ：初めて明らかになったＴ.Ｍ.ヂコヴァ，Ｎ.Ｎ.ヂコフ・コレクションの内耳土器の全体像とその意義

※事前申し込み・参加費不要
※問い合わせ：北海道考古学会事務局　hokkaidokoukogakkai@yahoo.co.jp

## 会誌に関するアンケート結果を受けて

会誌編集委員会

2012年度に実施した会誌に関するアンケート結果は、昨夏に発行した『だより』第106号に同封した通りです。ここでは、この結果を受けて、今後どのような会誌にしていくのか、項目ごとに提示させていただきます。

### (1) 会誌及び原稿の体裁について

「判型」については、現状（Ｂ５判）のままでよい（58名：61.7%）とＡ４判に変更するのが望ましい（33名：35.1%）に意見が分かれましたが、現状維持を支持する意見がまだかなり多いことや伝統や継続性を重んじてほしいとの要望もあることから、Ｂ５判のままとします。

「表紙の紙質・色等」や「表紙の題字」、「表紙・裏表紙のレイアウト」、「組版・文字サイズ」、「キーワード」、「註・引用参考文献」については、現状維持を支持する意見が圧倒的でしたので、変更はしません。

「要旨」については、現状（未添付）を支持する意見が少なく（36名：38.3%）、和文要旨のみもしくは和文と英文要旨を両方付すとの意見が上回ったため（合わせて55名：58.5%）、和文要旨のみ（400字以内）を付すこととします。英文要旨については、英文添削に係る労力や費用の問題もあり、今後の検討課題とします。

「ルビ」については、現在の規定（初出の人名・地名・遺跡名に必ず付す）のままでよいとの意見が多数を占めましたが（59名：62.8%）、煩雑になりすぎるため、現状運用のとおり、難読なものに限ってルビを付すに変更します。

自由回答欄にもさまざまな意見が寄せられました。このうち、ＰＤＦデータの会員への配信やＣＤ-Ｒを付すことについては、著作権などの問題で当面は難しいと考えています。

### (2) 投稿及び編集方針について

「原稿のテーマ」、「会誌のあり方」、「会誌編集方針」、「会誌編集委員会による査読」、「会誌編集委員会の人数」、「原稿の種類」、「会誌の総頁数」、「掲載原稿に対する対処」、「規定頁数超過分に対する原稿執筆者の負担」については、現状維持を支持する意見が多数を占めましたので、現状のままとします。

「各種原稿の頁数」についても、現状維持を支持する意見が多かったのですが（71名：76.3%）、近年、規定の頁数を超過する原稿が多く見られることや、他の雑誌の制限頁数の状況を鑑み、論文や報告を現状の16頁以内から20頁以内、研究ノートや資料・遺跡を８頁以内から10頁以内に増やすことにします。なお、書評については２頁以内のままで変更しません。

本項目でも、自由意見として、掲載原稿のデジタル化やＨＰでの公開を希望する意見が寄せられましたが、前述したとおり、その実現には著作権等の問題をクリアしなければならないため、今後の課題とします。

以上、今後、変更する項目は「要旨」と「ルビ」、「各種原稿の頁数」についてです。変更は次輯の第51輯から適用されます。すでに北海道考古学会のＨＰに掲載されている「投稿について」と「原稿の体裁について」の内容は更新されていますので、ご参照ください。今後も、会員の皆様からの積極的な投稿をお待ちしております。

# 会員からの投稿

## 新刊紹介

イーガリ・アナトーリヴィチ・サマーリン、オーリガ・アリェクシーヴナ・シュービナ『南千島地方の歴史及び文化記念物』※

西脇対名夫

昨年末印刷に付され、500部が刊行されたこの図書は、著者らが2001年から2005年までに実施した野外調査の成果を主な材料として、これまでにサハリン州ユジナクリーリスク管区（国後島・色丹島及び歯舞群島）で確認された考古遺跡の全てと、歴史時代の主要な記念物を紹介している。総カラー印刷レター判160頁と付図１葉、表紙には朝焼けの空を背景に爺々岳のシルエットが印象的である。

この地域の考古学研究史の概要をまとめた１章、考古遺跡を紹介した２章、歴史時代の記念碑や史跡を紹介する３章から成るが、日本の考古学者の興味を最も引くのは第２章であろう。計181箇所（うち国後島141箇所）の考古遺跡には「集落」「孤立した住居」「遺跡」「遺物発見地」等の種別が与えられ、このうち居住地とみなされる前二者（国後島で101箇所、その他23箇所）のうち110箇所の地形図（うち既存の刊行物から転載したのは２箇所のみ、縮尺1,500から3,000分の１前後）が掲載され、そこに計1,052個の竪穴が図示されている。また集落のうち「防御集落」と区分された国後島10箇所、色丹島５箇所の全てに地形図があってチャシ跡と思われる壕が描かれ、複数のチャシ跡を含むとみられる遺跡もある。

居住地以外の考古遺跡57箇所のうち28箇所についても著者らの作成した地形図が掲載されるほか、115箇所には遺跡の現況写真が添えられている。そこに見る限り遺跡の多くが手付かずの自然、またしばしば非常にけわしい地形の中にあり、そこから推して地形測量を中心とする野外調査に投入された労力には実際ただならぬものがある。一方、少なくとも記述された限りでは発掘は一切していない。また採集遺物の年代がごく大まかに記載されるのみで、遺物の収蔵先と収蔵番号は明記されているが図や写真は一切ない。こうした著作の意図を物語る序文と結語を、著者らの了解を得て抄訳してみた。

× × × × × ×

……ロシア語文献上のデータでは、我々が野外作業を開始する以前にこの諸島で知られていた考古学的記念物は約30件であり、そのうちわずか２件－国後島のアリョーヒナとシルナヴォーツクの古代集落－が国の顧慮を受け「サハリン州歴史及び文化記念物国家台帳」に記載されていた。現在までに国後島ではすでに140以上の考古学的記念物が明らかになり、色丹島と小クリル列島の島々でも約40箇所の古代人の遺跡・集落が見つかった。……いずれも明確に連邦にとって意義ある文化遺産であり国家の保護に値する。

この本を刊行する目的の一つはサハリン州のまことに豊かな文化・歴史遺産を周知することにある。文化遺産に関する連邦法は文化財に接する権利と、そのための情報を享受する自由を保障している。言うまでもなく、住民は歴史文化記念物を利用するだけではなく、それらに対する態度の規範を構成する立場にある。市民の意識の中で記念物の文化的な意義への理解が風化したり失われたりするなら、国の機関による保存事業は展望のない対処の集積に過ぎないものとなってしまう。（３頁）

……この本が実用的な参考書とか道案内のように思われていわゆる「黒い考古学者たち」－自分の趣味で10個かそこらの石鏃を掘りあてようとスコップを持って今にも出かけようとするような－のために役立つのでは困る。その反対に、法を破った人間がよく使う「ここに考古学的記念物があるなんて知らなかった」という言い訳を封じるためにこの本を出版したのである。……

筆者らの行った考古学的記念物の野外調査、解明、記述、測量および年代決定は、これらの文化財を国の統一原簿に登録する手続きの中では初歩的な段階のものである。連邦法の重要な規定、文化遺産への国家的顧慮における中心的な問題の一つは保護の対象を確定することにある。それは物件を国の保護下に置き改変を禁ずる際の基礎となるもので、そうした対象を保存することがそのまま保護の必要条件を決定することになる。またそれに劣らず物件の登録決定が受理されるうえで重要な条件はその範囲が明確であることで、その範囲は画然と決定され国の土地台帳に記載されたものでなければならない。「ユジナクリーリスク管区」という地方行政区において、こうした措置はすべて今後達成しなければならないものであり、この本の刊行はその作業のためのよい補助として役立つだろう。（４頁）

……この島々は居住や経済活動に適した土地が比較的少なく、その結果古代の遺跡や集落は河谷や湖沼の岸、海岸に顕著に集中していて、従ってまさにそうした場所で現代人の活動も行われているという特徴がある。

それゆえ考古学的記念物の存在を示すデータが経済的に利用すべき地域に欠如していても、そこに記

念物がないということにはならない。連邦法30条の規定により……経済的利用に付されるすべての土地区画は専門的考古学者の行う歴史文化上の査定を受ける必要がある。実務上、とりわけ土地区画の査定に際してそれまで学術的に未知であった考古学的遺産の確認が生じているのである。(156頁)

× × × × × ×

この図書は販売されていない。道教委で閲覧可能であるが、所属機関への寄贈等を希望される方は直接著者へ依頼されたい。残部は少ないがＰＤＦファイルでの提供も可能とのことである。裏表紙に示された連絡先アドレスを転載する。

i.samarin@admsakhalin.ru olga.island@mail.ru

※原題《Памятники истории и культуры Южно-Курильского района》。2013年、州文化省と州立郷土博物館によりユジノサハリンスクで刊行。

## 入退会者のお知らせ

≪新入会員≫ ※五十音順・敬称略

今泉和也（札幌市） 長山明弘（栃木県）

≪退会者≫ ※敬称略

畑 宏明（札幌市［物故］）

## 会費納入のお願い

会の運営には、会員の皆様のご協力が不可欠です。会費の年内納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。また、本年度を除く過去３年以上の会費が納入されていない会員には、北海道考古学会誌を送付しておりません。会費納入を確認後、送付いたします。

**郵便局口座番号：02770－６－8358 加入者名：北海道考古学会**
**年会費：（一般）5,000円 （学生）3,500円**

## 会誌編集委員会からのお知らせ

**会誌第51輯への投稿について**

『北海道考古学』第51輯（2015年３月刊行）の原稿の締め切り日は2014年12月25日(木)(必着）です。投稿希望を申し出る締め切り日は過ぎましたが、投稿を希望する会員は、至急編集委員会にご連絡ください。

**会誌編集委員会事務局** 〒069-8555 江別市文京台11
札幌学院大学 臼杵研究室
TEL ：(011) 386-8111
E-mail：usu@sgu.ac.jp

北海道考古学会だより 第110号 2014年11月７日 発行
発行所 北海道考古学会（ホームページ：http : //www.h7.dion.ne.jp/~hokkouko/）
事務局：〒052-0031 北海道伊達市館山町21-5
伊達市噴火湾文化研究所内 北海道考古学会事務局
TEL ：(0142)21-5050
FAX ：(0142)22-5445
E-mail：hokkaidokoukogakkai@yahoo.co.jp
印 刷 北海道図書企画 (011)668-1131